

海津市まちづくり委員会「第2回グリーン・ツーリズム検討分科会」会議録

開催年月日 平成19年10月11日(木)

開催場所 海津庁舎3階「委員会室」

分科会委員定数 15名

開 会 午後2時

閉 会 午後4時

出席者 ○分科会委員

東海学院大学学長 杉山道雄

岐阜県農業振興課 課長補佐 川瀬昭

公募市民 伊藤啓二郎

農業委員会代表 橋本輝男

農事改良組合連合会代表 西脇幸雄

営農協議会代表 芳賀麒一郎

海津市商工会 鷲野勝憲

農業フォーラム21代表 山内徳男

農業セミナー代表 近藤修治

木曾三川ブルーベリーの里 伊藤辰博

海津市4Hクラブ 近藤栄希

海津市農林振興課主幹 青木彰

海津市商工観光課係長 大倉光好

海津市生涯学習課係長 森悦子

海津市企画政策課主任 毛利卓司

○事務局

企画政策課長 三木孝典

企画政策課主幹 服部尚美

会議次第 1. 開会

2. 追加委員紹介

3. 協議

(1) 分科会の活動報告状況について

(2) グリーン・ツーリズムの検討について

(3) その他

4. 閉会

会議録（要約）

分科会長	ただ今より、まちづくり委員会「第2回グリーン・ツーリズム分科会」を開催します。今回から岐阜県農業振興課の川瀬課長補佐にも参加していただくことになりました。協議事項について事務局より説明願います。
事務局	<資料に基づき説明>
川瀬委員	<岐阜県の取り組みを紹介>
事務局	西濃地域で参考になる取り組みをしているところはありますか。
川瀬委員	揖斐川町の谷汲に岐阜揖斐生活学校というところがあります。廃校になった小学校を活用して宿泊できる施設にリニューアルしました。そこを拠点にして子供会とかスポーツ少年団などを受け入れています。年間5千人くらいの利用者がいます。
事務局	高山・郡上が盛んな地域ということですが、地理的条件や比較的都市近郊に位置する海津市とでは若干、違うグリーン・ツーリズムになるのかと思います。この辺りでは日帰り型のグリーン・ツーリズムが考えられます。また、海津市は非常に農業が盛んな地域であり、大規模な農場、先進的な経営者もみえます。将来実現できるかは別として、こういう取り組みができるという事がありましたらお願いします。
川瀬委員	郡上市と高山市が多いのには理由があります。もともとこういったところの母体になる民宿は、スキー客の民宿です。 海津市のような平坦地で取り組んでいるところはなかなかありません。全国的に見ても海津市と同じような条件で取り組んでいる事例はなかなかありません。 田畑、ハウスなど色んなものがあるので、日帰りで体験をするのも1つだと思います。旅行者によると、泊まりよりも日帰りの方が人気があるようです。名古屋などのお客さんのニーズは、収穫体験を楽しみ、その場で食べられる、おみやげでイチゴとか果物を持ち帰れるというオプションがあった方がいいと聞きました。
A委員	小学校の修学体験をやっていますが、受入れる日は、生産者に迷惑がかかります。普及員やアドバイザーなど第3者の方が来て、子供たちに勉強させるということであれば生産者に負担がかからないだろうと思います。
B委員	観光農園としてやってみえる方ならいいと思いますが、一般の農家がやるのは難しいのではないのでしょうか。役所の方も情報を発信すること（PR）も大事だと思います。
A委員	道の駅の規模（農産物販売など）を拡大して、生産者が（売り場に）滞在して消費者と対話してはどうでしょうか。

<p>杉山学長</p>	<p>グリーン・ツーリズムで高山が成功していますが、なぜ成功しているのか。  グリーン・ツーリズムは、はじめは販売型です。高山の朝市は、毎日やっている。他は土日。大きな農家をアンテナショップにしてやっている。大きな農家が参加するのが大事。その次は参加型。参加体験型で成功していったら滞在型です。滞在型に一気にいきません、いろいろなプロセスを踏む必要があります。  観光資源をベースにして、どう農家の人がそれを利用して組み立てるか。それを組み立てるのに春夏秋冬を位置づけてもらいたい。春はチューリップとかサクラとか羽根谷とか大くれ川とかあります。これとお千代保さんをつなげる。食べ物は草餅、つくし。夏は蛍とレガッタ。これらをどう結びつけるか。秋は月見。行基寺や養老山系から見た風景とか。冬は野鳥観察、渡り鳥を観察する。  市役所としては情報発信機能、ただその情報がオンリーワンじゃないと意味がない。オンリーワンを地元の人がどう認識しているか。レガッタ・デレーケなどあるものを活用する。</p>
<p>C委員</p>	<p>現実を踏まえると難しい。他の委員が言われたように施設園芸だったら、そういう取り組みができるかもしれない。クレール平田の近くの河川敷に、都会の方のために農業体験をしていただくとう畑を確保してあるが、もっとPRが必要だ。  指導的立場をとれる人の発掘、育成が大切であると思う。これからの農業のあり方を考えるときであり、議論を重ねていい方法が見いだせればと思う。</p>
<p>D委員</p>	<p>収穫体験はとかいの都会の住民に大変喜ばれると思うが、受け入れ先がどれだけあるかということが問題だ。</p> <p>以上をもちまして第2回目の分科会を終了いたしたいと思います。</p>